



環コラム

eひと

教えて

自然派

## 外来種 最後まで飼い続けるぞ



わなにかかっていたアカミミガメ  
東京都練馬区

現在、環境省の取材を担当しており、外来種の記事を書く機会も多い。外来種とは、本来の生息地とは違う場所に、人によって持ち込まれた生きものだ。日本にもすでに2千種以上が侵入していると思われる。

4月末には、外来種のアカミミガメ(ミドリガメ)について取材した。ひなたぼっこ好きのカメの習性を利用して捕まえる「日光浴わな」が、全国で広がりつつあるという取材だ。アカミミガメは米国などが原産。環境省によると、全国の野外に約370万〜1770万匹が生息し、水草や農作物を食べたり、他のカメのすみかを奪ったりしている。日本の生態系にとっては厄介者と言える。

外来種問題の解決には、野外で

の駆除と同時に、野外に出さず、最後まで飼い続けることも大切だ。私もアカミミガメについて、2015年に、「決して自然に放さず、最後まで責任を持ってかわいがないとね」と記事に書いたことがある。

取材時に、日光浴わなに入っていた20匹近い外来種のカメの中から1匹を選んでもらってきた。飼っているということの重みを、自分も実際に感じたいと思ったからだ。生きもの好きとして、救える命があるなら、1匹だけだが助けたいとも思った。

それから約2カ月。毎日エサを与え、週に1回は水を換える。今はそうした世話は、大した苦労ではない。ただ、アカミミガメは、寿命が30年以上ともいわれ、現在は10才程度の我が家のカメの甲羅は、将来的には倍近くになるとみられる。その頃には、現在は小学生の息子は今の私と同年代になり、もしかしたら私には孫がいるかもしれない。気の長い将来の話だが、飼い続けてみるつもりだ。

そして、今後外来種の記事を書くときには、「最後まで飼い続けよう」の一文に、当事者としての思いを込めたい。

(小坪遊)